

新庁舎の基本設計がまとまりました

市民が身近に感じ、つながりの拠点となるような新しい市役所を目指して、平成34年度の完成に向け取り組んでいきます。



南東側からのイメージ



1階フロアのイメージ

※現時点でのイメージであり、外構を含め色彩やデザイン等は今後の検討により変更することがあります。

新庁舎建設の基本的な考え方

●不足している庁舎機能を拡充します

転入・転出、婚姻、出生などのライフイベントに伴う手続きがワンストップでできる窓口、バリアフリーに対応したトイレや通路、市民の皆さんと行政などとの協働スペースなど、今までよりも質の高い行政サービスを提供します。

●分散している庁舎を一棟に集約します

現在の本館・別館のほか、7か所に分散している庁舎を集約し、業務の効率化と所属間の横方向の連携を密に図ることで、市民の皆さんへのサービス向上に繋がります。

●防災拠点として必要な性能、機能を確保します

防災拠点施設として、災害が発生した際にも市民の皆さんを守り、支援することが出来る庁舎を目指します。

【庁舎集約のイメージ】



新庁舎の建設場所について

■新庁舎の建設予定地は、旧公会堂と旧公会堂前公園の敷地です。

■長崎市では、陸の玄関口である「長崎駅周辺」、海の玄関口である「水辺の地区」、新大工町から中通りを経て南山手に至る「まちなか地区」という3つの拠点の連携を図ることを基本にまちづくりを進めています。新庁舎が「まちなか軸」に一步近づくことで、3つの拠点のつながりが“線から面”に広がり、新たな賑わいの創出や中心市街地の活性化に繋がると考えています。



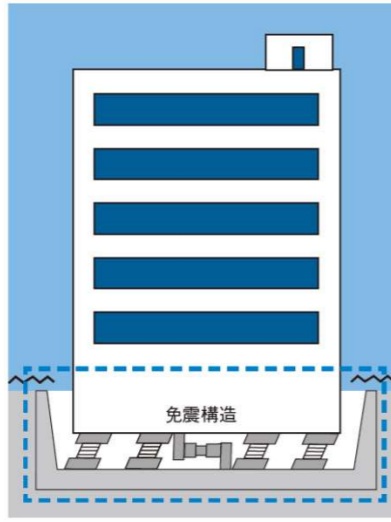
新庁舎の主な特徴

「長崎市新庁舎建設基本計画（平成26年2月策定、平成28年11月改定）」を基に、市民や学生の皆さんによるワークショップ等でご意見を、市議会における議論、パブリック・コメントでのご意見を踏まえ、新庁舎の基本設計がまとまりました。

市民の安全・安心な暮らしを支える庁舎

- 防災拠点として、災害時にも機能しつづけるための建物耐震性能の確保、インフラ整備を行います。
- 大地震後の建物機能の維持・建物の更新性に優れた「免震構造*」とします。

※地震のエネルギーを吸収する装置によって、建物本体への地震の揺れを伝える構造



【免震構造のイメージ図】

ゆとりのあるエントランスホールとエスカレーターの設置

- 来庁者の待合や休憩場所として活用でき、パブリックビューイングなどのイベントにも対応できるような、ゆとりのあるエントランスホールを設置します。
- 市民利用の多い低層階部分を楽に移動できるよう、1階から4階までエスカレーターを設置します。



【エントランスホールのイメージ】

市民と行政との協働の促進や市民間の交流の拡大につながる市民利用スペース

- 市民の皆さんが利用できる多目的スペースや会議室、情報スペースを低層部分に配置し、市民と行政の協働や市民間の交流の拡大を図ります。
- セキュリティラインを設けることで、これらのスペースは平日の夜間や休日にも開放可能な計画とします。



【多目的ホールのイメージ】

利用しやすい窓口とプライバシーへの配慮

- 市民の皆さんを出迎えるような、分かりやすく使いやすい窓口の配置とします。
- 1階には転入・転出、婚姻、出生などに伴う手続きがワンストップでできる窓口と障害者、高齢者及び被爆者などの相談窓口や、地域のまちづくり支援等の相談窓口を配置します。
- 2階には子育てに関する機能を集約した「子育てワンストップ窓口」を配置します。
- プライバシーに配慮した窓口や相談室を配置します。



【窓口のイメージ】

- 4F 専門的な手続き、相談窓口 (生活保護・税関関係など)
- 3F 専門的な手続き、相談窓口 (税・保険関係など)
- 2F 子育てワンストップ窓口
- 1F 身近な手続き、相談の総合窓口

すべての人に配慮したユニバーサルデザイン

- 建物の出入口やエレベーター、階段などを分かりやすく配置します。
- 窓口カウンターやトイレなど、高齢者、障害者、子ども連れの方などのすべての人が快適に利用できるよう配慮することにより、誰もが使いやすい庁舎とします。



【多目的トイレのイメージ】

分かりやすいサイン計画

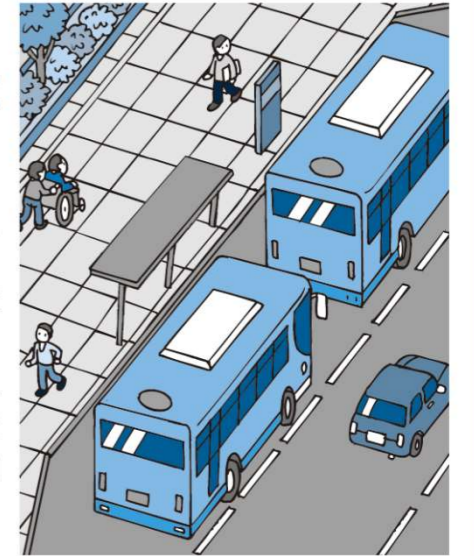
- 庁舎全体のサイン（案内表示）の形状、書体、記号、色彩などデザインの統一を図ります。
- ユニバーサルデザインに配慮し、すべての人が目的とする場所を容易に認識できる計画とします。



【サインのイメージ】

公共交通の利便性の確保と快適かつ安全な歩行空間

- 円滑な交通環境を確保するため、周辺道路を拡幅するとともに、バスやタクシーの停車スペースを配置します。
- 快適かつ安全に歩行できるよう、十分な広さを持った歩道と季節を感じられる緑の空間を整備します。



【バスの停車スペースのイメージ】

快適な待合スペース

- 快適に待ち時間を過ごすことができるような待合スペースを確保します。
- 子ども連れの方のために1、2階にキッズスペースを配置します。
- 1階から4階の各階には授乳室を設置します。



【キッズスペースのイメージ】

開かれた議会、親しまれる議会機能を備えた庁舎

- 来庁者が訪れやすいように議会機能をワンフロアに集約して配置します。
- 傍聴席には、車いす利用者や親子連れの方などが気軽に傍聴できるスペースを設置します。
- スクリーンやモニター、プロジェクター等の設備機器を設置するなど、傍聴者に分かりやすく、かつ、議論を深められる環境を整備します。



【親子連れの方などの傍聴スペースのイメージ】

Q1 新庁舎の規模はどのようにして決まったの？

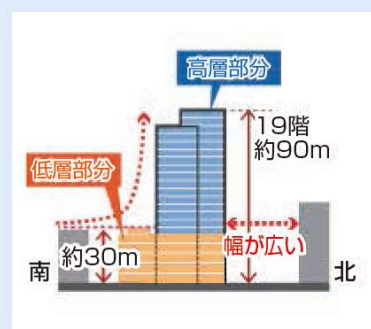
市民の皆さんが快適に手続きや相談ができる窓口や、プライバシーに配慮した相談室、バリアフリーに対応したトイレなど、現庁舎に不足している機能への対応を図るとともに、子育て関連機能の充実、市民の皆さんが利用できる多目的スペースや会議室の設置、災害対策本部機能の確保など、質の高い行政サービスや安全性を提供するために必要な面積を積み上げたものです。

現庁舎の職員一人当たりの面積は、中核市平均の6割程度と狭く、新庁舎にあっても、平均をやや下回る程度であり、コンパクトな設計となっています。

また、将来の人口減少と同じ割合で職員数が減ると仮定した場合でも、約20年後の職員一人当たりの庁舎面積は24.8㎡と見込まれ、長崎市と同規模で近年建てられた市庁舎の水準（約25㎡）を下回っており、将来を見越しても過大な庁舎面積ではないと考えています。

Q2 建物の高さはどのようにして決まったの？

市民の皆さんが手続きや相談に訪れる窓口を低層部分に配置することを基本に、必要となる床面積を積み上げ、これに議会機能を加えて低層部分は5層としました。また、高層部分については、必要な床面積を確保しつつ、南側や西側の建物への圧迫感を軽減するために道路幅員が広い北側に配置するとともに、風頭公園などの眺望ポイントからの景観に配慮するため、階数を19階、高さを約90mとしました。



Q3 人や車の出入口はどこになるの？

徒歩や公共交通機関を利用して来庁される方の出入口は、新庁舎の各方面に最低1か所は設けます。また、車で来庁される方の駐車場は地下に設け、出入口は南側の道路に配置します。さらに車いす利用者の方の駐車場は、正面・東側玄関付近と地下駐車場の中に設け、雨に濡れずに来庁できる計画としています。



■計画概要

敷地面積	約6,600㎡
建築面積	約4,100㎡
延べ面積	約46,200㎡（駐車場を除く）
構造	鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造、免震構造
階数	地上19階、地下1階、PH1階
建物高さ	約90m

■事業費

種別	金額
設計、建設費等	約245億円
既存庁舎解体費	約7億円
その他移転費	約6億円
合計	約258億円

■スケジュール

平成29 (2017)年度	平成30 (2018)年度	平成31 (2019)年度	平成32 (2020)年度	平成33 (2021)年度	平成34 (2022)年度
設計 基本設計 実施設計		建設工事			

基本設計のほか、新市庁舎建設事業の経緯や概要、基本計画等についてはホームページで詳しく紹介しています。

長崎市 庁舎建設計画

検索